



ホスピーグループ理事長  
太田 圭洋 先生



名古屋記念病院 看護部長  
井原 加代子 さん



## ●プログラム

**開会の辞** 第24回ホスピー研究会実行委員長 草深 裕光

### シンポジウム 1 ― チェンジはここから ―

**Chairman** 岡山ミサ子 ( 新生会第一病院 看護部長 )  
山田 明 ( 名古屋記念病院 放射線部技師長 )

**シンポジスト①** バランススコアカードから  
齊藤 和洋 ( 東海クリニック 副院長 )

**シンポジスト②** 当院の新人教育の現状と課題  
中尾 幸子 ( 東海クリニック 看護部主任 )

**シンポジスト③** 透析業務支援システムおよびモニタリング機器の活用による他職種との連携  
伊藤 靖 ( 金山クリニック 臨床工学部副主任 )

### シンポジウム 2 ― ケアをチェンジ ―

**Chairman** 横山 逸男 ( 鳴海クリニック 院長 )  
永尾 洋子 ( 東海・東海知多クリニック 師長 )

**シンポジスト④** 携帯型認証システムを活用した透析室における誤認防止の取り組み  
中原 秀之 ( 名古屋記念病院 臨床工学部 )

**シンポジスト⑤** リハビリテーションにおける多職種の取り組み  
松川千賀子 ( 名古屋記念病院 リハビリテーション部科長 )

**シンポジスト⑥** 施設転入時の患者受け入れ計画表の使用について  
早川 幸子 ( 鳴海クリニック 看護部主任 )

### シンポジウム 3 ― チェンジはチャンス ―

**Chairman** 小川 洋史 ( 新生会第一病院 院長 )  
関川 美知 ( 鳴海クリニック 師長 )

**シンポジスト⑦** DPCで医療が変わる？  
武内 有城 ( 名古屋記念病院 副院長 )

**シンポジスト⑧** 病院機能評価受審への取り組み  
井原加代子 ( 名古屋記念病院 看護部長 )

**シンポジスト⑨** 障害者自立支援法への取り組み  
栗木真由美 ( あしたの丘 援助部主幹 )

**シンポジスト⑩** 老いることを幸せと感じられますか  
村瀬 敦子 ( 新生楽舎 看護部・介護主査 )

**理事長挨拶** ホスピーグループ理事長 太田 圭洋

**閉会の辞** 名古屋記念病院院長 藤田 民夫

SWOTやBSCについて説明し、その中で、齊藤副院長は、「BSCバランススコアカードを用いて改善できる点を洗い出してアクションプランを立て、患者さんへのダイレクトメールなどを行った結果、バースデー検査件数が増加した」ことを話した。

同クリニックの中尾幸子・看護主任は、質の高い人材育成がチェンジには欠かせない要素になるとの観点から、新人看護師の育成について「プリセプターシップを取り入れた新人教育プログラムを導入し、大きな成果を上げた」ことを具体的に示した。

第2セッションの「Change care---ケアをチェンジ」では、名古屋記念病院の中原秀之・臨床工学技士が、固有のバーコードを利用した携帯型認証システムの活用は、ダイアライザーや薬剤の誤認

防止に有用であり、さらに、リスクマネジメント、作業の効率化にも有意であると述べた。

第3セッションの「Change is Chance ---チェンジはチャンス」では、名古屋記念病院の井原加代子・看護部長が、病院機能評価のバージョン5を受けるためにチームが1年間取り組んできた中で実感した「一人一人が患者さんと働く自分たちのために改善しているという意識を持ったことが認定につながった」と話し、「グループ全職員が、チェンジする意識を持つことがチャンスにつながり、それがホスピーグループの発展につながる」ことを強調した。

ディスカッションでは、それぞれの発表者に対してフロアから質問があり、それに発表者が答えるなど活発な質疑応答が

展開された。

最後に太田圭洋・ホスピーグループ理事長と藤田大会委員長が「今回の研究会では、チェンジについていろいろな研究成果が発表され、大変有意義な研究会になった。この研究会で報告されたことを参考にしてこれからは、皆さんの力を結集し、それぞれの部署でチェンジに果敢に挑戦し、ホスピーグループがますます発展し、地域住民から信頼されるように取り組みましょう」と挨拶した。

会場には、600人を超える職員が参加し、熱心に聞き入ったり、メモするなど熱気に包まれていたが、一人ひとりの職員が、ホスピーグループは今こそ「チェンジ」が求められているのだということを強く認識した実ある研究会となった。